



地域を愛し、地域に愛される勝山高校へ

勝高Voice第2号は「地域とつながる勝山高校」と題して、本校生徒が関わった様々な行事やボランティア活動を紹介し、豊かな自然と人々の愛に包まれて育った生徒たちが、次世代の地域の担い手として真庭市を活性化していこうとするたくましい姿を、参加生徒の感想と一緒に掲載しています。

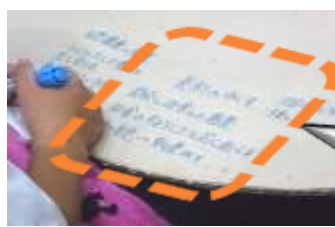
4校地合同の高校生ワークショップ

勝山高校（勝山校地・蒜山校地）・真庭高校（久世校地・落合校地）から総勢118名の高校生が参加し、真庭市主催の「未来を担う高校生が考える理想の未来の真庭」について考えるワークショップが開催されました。本校からは、28名の生徒が参加し、それぞれ4つの分野に分かれて積極的な議論を交わしました。

議論された分野：

- ①子育て環境
- ②医療体制
- ③仕事場
- ④生活・住居・商業施設

▼実際の活動の様子(円卓を囲んで座り、それぞれの意見を円卓に直接書き込んでいく)



差別をなくす
都会と田舎の格差
田舎のすばらしさを広く伝える
男の育児→男女差なくす

▼意見発表の様子(各グループが円卓を示しながら、真庭市のあるべき姿を提言する)



《多くのグループに共通した意見》

- ①交通の利便性確保
- ②若者が集まれる場所の確保・整備・誘致
- ③昔からの風習にとらわれず、田舎の課題を逆手に取るという「新しい価値観」の創出を目指す

▼勝山高校を代表して感想を発表
32HR 法華はな さん(蒜山中学校出身)



《参加者の感想から》

最初はとても緊張してうまく話せるか不安があったが、実際にみんなで輪になって“えんたくん”を膝の上に置いてみると、緊張も吹っ飛んでしまい、とても楽しく話し合うことができました。私は将来、真庭市内で教員の仕事に就きたいと考えています。そのためにも、今の真庭市を変えていく方法や、子どもを増やしていくために何ができるのかを自分なりに考えてきました。今日、他の学校の人たちと意見を交わすと、みんな全く異なる視点を持っていて、とても勉強になりました。この活動が、真庭市の将来にとって役立つものになってくれればと思います。また、将来、自分が教師になったとき、次は教師という立場でワークショップに参加できればと思います。

サマースクール

8月3日(月)～8月5日(水)の3日間、久世公民館で行われたサマースクール

に教育分野を志望する本校の2年生、3年生の生徒12名が参加しました。例年は、本校生徒が先生役を務め小学生に向けて授業をするのですが、本年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から以下の内容を行いました。

【内容】

◆宿題の手伝い

◆工作制作の補助

◆本の読み聞かせ

活動の様子

▼宿題の手伝い



▼工作制作の補助



▼本の読み聞かせ



《参加生徒の声》

児童が真面目に宿題に取り組んでいる姿を見てすごいと感じました。

宿題を教える際、答えだけを教えるのではなく、答えに導くような発問を

することが重要と教わりました。

サマースクールでの体験を通して、教育分野の仕事に就きたいという気持ちが一層強くなりました。

32HR 横野琴子さん(勝山中学校出身)



オープンスクール

8月19日(水)

マスクの着用や手指の消毒などの感染症対策を徹底した上で、オープンスクールが行われました。

240名を超える中学生が参加し、最初は緊張した面持ちでしたが、帰るころにはみんな笑顔で楽しそうに勝山高校を後にしてくれました。

○全体行事 in 体育館

学校紹介や部活動紹介を行いました。



○体験授業

各講座に分かれて、授業を体験してもらいました。在校生がサポート役として活躍してくれました。

○勝高クイズ ○座談会

在校生がファシリテーターとして、中学生の勝山高校への疑問や質問に答えていました。



【中学生の声】

朝から緊張してどうなるかと思ったが、楽しくてすぐ馴染むことができた。

中学校に比べて行事や部活動で違うことがたくさんあって楽しそうだった。大変なこともあるかもしれないけど、今から勝山高校に入学するのがワクワクする。